

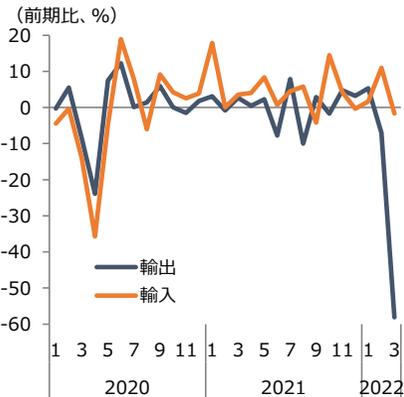
欧州

EUの対ロ貿易（2022年3月）

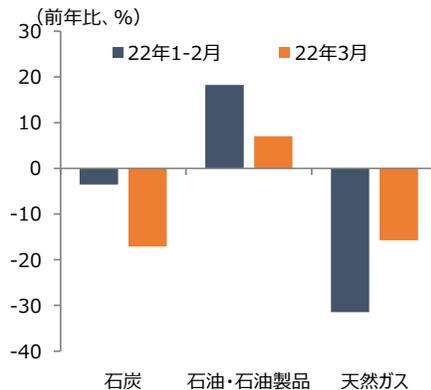
エネルギー輸入継続で輸入は小幅減にとどまる

政策・経済センター
綿谷謙吾
03-6858-2717

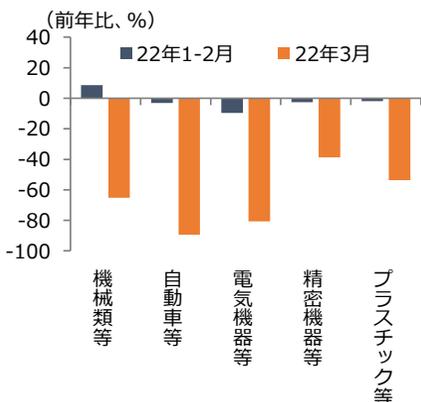
1 対ロ実質輸出入（季節調整値）

注：ドイツの輸出入物価をもとに実質化。
出所：CEICより三菱総合研究所作成

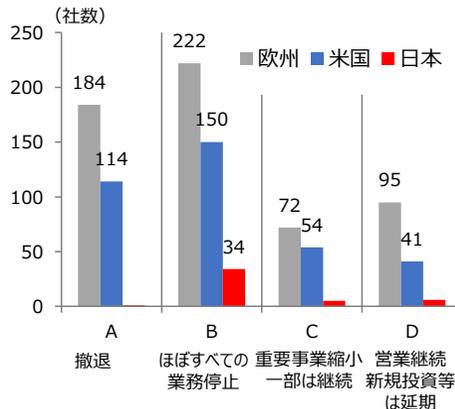
2 鉱物性燃料輸入（数量ベース）

注：石炭はHSコード27.01、石油・石油製品は27.09,27.10、天然ガスは27.11。
出所：Eurostatより三菱総合研究所作成

3 主な制裁品目の輸出（数量ベース）

注：制裁品目はCN8桁コードで指定だが、制裁品目が含まれるHS2桁コードで集計。機械類等は、HSコード84、自動車等は87、電気機器等は85、精密機器等は90、プラスチック等は39。
出所：Eurostat、欧州委員会より三菱総合研究所作成

4 ロシア事業の撤退/継続状況

注：22年5月16日時点。
出所：Yale School of Managementより三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- EUの22年3月の対ロ実質輸入（季節調整値）は、前期比▲1.7%と小幅な減少にとどまった（図表1）。
- 背景には、ロシアからのエネルギー輸入の継続がある。対ロ輸入の中心である、鉱物性燃料の輸入（数量ベース）は、石炭や天然ガスは前年比で減少しているが、輸出ほど落ち込んでいない（図表2）。EUは石炭や石油・石油製品の禁輸を発表したが、本格的な影響が出るのは年後半となる。
- 一方、対ロ実質輸出（季節調整値）は、前期比▲58.1%と大幅に減少（図表1）。対ロ制裁品目の輸出をみると、ロシア向け輸出のシェアが高い機械類等（19年の対ロ輸出の2割程度）は前年比6割減、自動車等（1割程度）は前年比9割減と大幅に減少した（図表3）。
- ウクライナ向け輸出は前年比で半減したが、武器輸出は前年の約50倍となった。

基調判断と今後の流れ

- EUとロシアの貿易は、輸入はエネルギー輸入継続から小幅減も、対ロ経済制裁の影響から輸出は大幅に減少した。
- EUは4月以降、追加の経済制裁を発表、輸出入の制裁対象品目も拡大している。企業のロシア事業からの撤退や事業縮小も拡大しており（図表4）、先行きも対ロ貿易は輸出入ともに縮小は不可避だ。
- 特に影響が大きいのは、EUがロシアに大きく依存するエネルギー輸入だ。
- EUは制裁効果を高めるためにエネルギーの禁輸を検討、段階的な脱ロシアの実現を目指しREpowerEUも公表した。脱ロシアに向け、短期では省エネやロシア以外からの輸入を増やすエネルギー供給源の多様化を目指しているが、依存度の高い天然ガスはLNGの受け入れ能力の増強が必要であるなど、代替は容易でない。ポーランドへの供給停止など、突然の報復措置のリスクもあるなか、経済への悪影響を抑えながら、脱ロシアを実現できるかが注目だ。